

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育モデルの探究（４）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢 壽勇
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	富澤 かな
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木 さやか
		所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	藤田 雅也
		所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 学
		所属・職名	ムセイオン顧問・非常勤講師	氏名	立田 洋司
	発表者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢 壽勇

講演題目	ムセイオン静岡の五感を駆使した地域一体型教養教育モデルの探究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>「ムセイオン静岡」は、本学を含む7つの文化教育機関（本学、県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財センター、舞台芸術センター（SPAC）、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）の連携機関として、本学学生はもとより静岡県の教育・文化の振興に大きく貢献してきた。「ムセイオン静岡」の全学共通科目3科目は、本学COC「しずおか学」科目群において静岡の歴史・文化に関する中核的講義として位置づけられてきた経緯もある。本研究の目的は「ムセイオン静岡」関連諸機関の連携を通じて、本学の教養教育、地域貢献、社会貢献機能を一体化させつつ、他地域には見られない独創的な生きた教養教育を追究し実践していくことにある。換言すれば、本学を中心にムセイオン静岡の文化教育諸機関のヨコの連携とネットワーク強化を図りつつ、地域社会と一体化した教養教育を目指し、その持てる文化資源、社会関係資本を活かしたモデルを構築することが本研究の目標である。具体的には、SPAC俳優等による「羽衣」劇での協働作業や舞台セリフの実践稽古などの試みはその諸例である。また、毎年開催してきた「世界児童画展」なども本活動の一環だが、令和4年度の本プロジェクトでは、同児童画展の趣向をやや変え、ウクライナ、ロシアという両戦争当事国の児童画を特集するという、時機に合わせた特別企画とし、国境を超えた子供の感性の豊かさや地域特性を鑑賞、理解する好機となった。同企画は一般市民の好評を博し、メディアからも広く注目され、地域社会との交流も促進された。また、静岡出身の国際的フルート演奏家の古川はるな氏の特別講義と実演も実施し、同氏が近年カンボジアで児童を対象に実施した音を全身体で感じるワークショップでの大変興味深い経験と知見を披露してもらい、教育効果が大きかった。他方、広域ヨーロッパ研究センターとの共催で講演会も実施し、言語コミュニケーション研究センターのSPAC俳優を招いての身体表現のワークショップも後援した。ムセイオンプロジェクトで積み上げてきた人脈と経験知の活用と成果は本学の教育のさまざまな現場に着実に普及・浸透している。今後はこの五感を駆使した地域一体型教養教育の探究をさらに多角的に推進し、地域の文化資源や社会関係資本を最大限に活用したりベラルアーツ・国際教養教育の実験を一層進展させていくことを目指したい。</p>